

第1回耐震設計規格委員会 議事録

I. 日 時：平成29年7月10日（月）10：00～12：00

II. 場 所：機械振興会館 B3-6 会議室

III. 出席者：（敬称略・順不同）

委員長：渡邊

副委員長：盛川

委員：古屋、因幡、坂井、堀野、茨田、大江、藤田、森本、市川（雄）、上野、
片岡、吉岡、金子、岩田、市川（泰）、水上、出澤、森村

オブザーバー：青山、近藤（経済産業省）、本田（(株)日建設計シビル）、
大島（東京ガス（株））

K H K：杉浦、小山田、木全、大野、佐野

IV. 配付資料

資料1 耐震設計規格委員会委員名簿

資料2 高圧ガス保安協会定款（抜粋）

資料3 耐震設計規格委員会について

資料4 技術基準作成基本方針及び規格委員会規程について

資料5 技術基準作成基本方針

資料6 高圧ガス保安協会規格委員会規程

資料7 技術基準策定手順書について

資料8 技術基準策定手順書（案）

資料9 「高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（仮）」の制定に向けた検討および実施内容について

資料10 技術基準整備3ヶ年計画（平成28～30年度）

資料11 耐震設計規格委員会における技術基準整備計画（案）

参考資料1 「耐震告示」の改正に向けた検討状況

参考資料2 告示改正案（平成28年度石油精製業保安対策事業（高圧ガス設備等耐震設計基準の性能規定化に向けた調査研究）より）

参考資料3 例示基準新設案（平成28年度石油精製業保安対策事業（高圧ガス設備等耐震設計基準の性能規定化に向けた調査研究）より）

参考資料4 高圧ガス設備等耐震設計指針（2012） レベル2 耐震性能評価 解説編 改訂新版（指針部分抜粋）

V. 議事概要

1. 挨拶等

開会に当たり、高圧ガス保安協会 杉浦理事より挨拶があった。

2. 委員等紹介

事務局より、資料1に基づき、委員の紹介が行われた。引き続き、事務局側の出席者の紹介が行われた。

3. 定足数報告

事務局より定足数の報告があり、委員数 22 名に対し、委員出席 20 名で定足数（委員数の過半数以上）を満足している旨があった。

4. 議案（1）委員長互選、副委員長指名

規格委員会規程第2条第4項の規定により、本委員会の委員長は互選により定めることとなっている旨事務局から説明があった後、互選により渡邊委員が委員長に選任された。

また、渡邊委員長から盛川委員に副委員長をお願いしたい旨発言があり、盛川委員がこれを了承し、副委員長に就任した。

5. 資料2から資料7までの説明

事務局より資料2から資料7までの説明があり、資料4から6は他の規格委員会と同じとの説明であった。

6. 議案（2）資料8技術基準策定手順書（案）についての審議及び採決

6.1 主な審議は以下のとおり。

（委員）パブリックコメントで提出された意見は、永久保存か。

（事務局）事務局にて永久保存する。

（委員）他の規格委員会との違いはどこか。

（事務局）第5条の業種分類が他の規格委員会と違う。

（委員）質問等に対応する委員会はこの規格委員会になるのか。

（事務局）規格委員会のもとに設置される解釈分科会が行い、規格委員会に報告する。

6.2 採決

審議後に資料8を正式な手順書として承認するための採決が挙手により行われ、出席委員全員（20名）の賛成により可決された。

7. 議案（3）資料9 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（仮）の制定に向けた検討及び実施内容についての審議及び採決

7.1 事務局より参考資料1及び資料9の説明があった。主な審議は以下のとおり。

（委員）p2/5の図のレベル2耐震性能評価評価例編の各章はレベル1となっているが、

レベル 2 の誤りではないか。

(事務局) 誤りなので、修正する。

(委員) 今年度は基準のみを作るのか。

(事務局) 今年度はまずは KHKS (基準) を作り、来年度は解説と評価例を TD (技術文書) の作成を予定としている。

(委員) レベル 1 については、平成 28 年度例示基準新設案のままで、レベル 2 はどのような内容とするのか。

(事務局) 現在の告示ではレベル 2 については詳細規定が無いので指針の解説部を追加する予定である。

(委員) レベル 1 とレベル 2 と分ける案だが、分けるメリットはなにか。

(事務局) 今後、レベル 2 地震動については適宜見直しされる可能性があり、レベル 1 と分かれていたほうが、改正するのに都合が良い。

(委員) レベル 2 は重要度 I a と I だけで、また計算方法もレベル 1 と異なるので、分けても良いと考える。

(委員) 将来的には分けずに合本することが望ましい。

(委員) KHKS と TD とに分けているが、解説と評価例も KHKS としたらどうか。

(事務局) 解説は規格の補足説明で、また評価例は例題なので TD としたい。

(委員) レベル 2 には内閣府により想定される地震動についても記述したらどうか。

(事務局) まだ明確になっていないので、今回は KHKS や TD には記述しない予定である。

(委員) KHKS と TD を合冊にして、使いやすいようにして欲しい。

(事務局) 各 TD を出版する際には利用し易い形としたいと考えている。

(委員) 例示基準案についての課題だが、当時決めた経緯を知る必要があるのではないか。経緯を知っている人に意見を聴く場 (正式でなくても良い) を設けて欲しい。

(事務局) できるだけ TD に記載できればと考えている。必要に応じて委員会に出席頂くか、書面で質問することにする。

7.2 採決

審議後に資料 9 を正式な協会規格の制定について、承認するための採決が挙手により行われ、出席委員全員 (20 名) の賛成により可決された。

8. 議案 (4) 技術基準整備 3 ヶ年計画 (平成 29~31 年度) について

事務局より資料 11 について説明があり、資料 11 を耐震設計規格委員会における技術基準整備 3 ヶ年計画 (平成 29~31 年度) とすることの採決が挙手により行われ、出席委員全員 (20 名) の賛成により可決された。

9. その他

参考資料 3 及び 4 についてのコメント (形式は自由) を 8 月 31 日までにいただきたい。また、後日、各委員に電子媒体を送付する。

以上